

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372202032		
法人名	株式会社オフィスシンセリティ		
事業所名	グループホームやまと椿館 1F		
所在地	愛知県一宮市竜屋四丁目13番16号		
自己評価作成日	平成22年 1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年 6月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372202032&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・笑顔返して頂けるような声かけ ・ご自分から訴えることができない方の変化に気付くように申し送り、チームワーク作り ・老いに対する不安を取り除けるような団欒の場作り ・利用者様同士の会話のができるよう中継役となりたい
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の交代はあったが、法人の理念である「礼節と尊厳」をホーム運営の柱として、管理者、職員のもとでチームケアが展開されている。一時期、職員の入れ替えが激しかった時もあったが、現在では落ち着いた安定的な雇用状態が続いている。 前回評価時に課題として残っていたものについては、ほとんど改善が完了していたが、特に「外出支援」の取り組みが秀逸である。毎月遠出外出を組み、利用者の楽しみとなっていることから、家族にも好評である。 しばらく休刊していたホーム便り「やまと通信」が復刊した。今後、ホームのトピックスや利用者の状況等、質の高い内容を利用者の家族に提供していくこととなる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「礼節と尊厳」の運営理念のもと、全員が「生涯家族」とあるという思いを持ち、家庭的な生活の場を提供し、利用者本位のサービスに努めている。	ホーム独自の理念を持たず、法人の定めた「礼節と尊厳」を運営の柱として支援にあたっている。職員の「親切」や「誠実」に対して、家族の評価が高い。	様々な事業展開の中で、事業所個々の成長が著しい。法人の理念は尊重されるべきであるが、ホームの強みを引き出す意味合いにおいて、独自の理念の必要性を感じる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回すときは、近所の方に挨拶をし、世間話などもするようにしている。散歩をしながらごみ拾いなど、身近にできることから地域活動に参加できるよう努めている。	地域の一大イベントとなった「やまと夏祭り」が、今年も盛大に開催された。利用者の家族も、半数以上が参加して夏の日を楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	盆踊りや屋台を出店して夏祭りをを行い、地域の皆様に参加して頂けるよう、地域の回覧板にて案内を回して頂いている。一宮太鼓の保存会の皆さんをまねいての競演など、地域の夏の風物詩になれるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、報告・意見を基に地域への周知向上、サービスの向上に努めている。	推進会議の開催は年2回だが、議事録から内容の濃い会議風景が読み取れる。地域交流や災害対策が真剣に討議され、職員の「協力を求めるばかりでなく、ホームも積極的に地域に出る」の言葉で促られている。	会議に出席した市・担当者や民生委員、区長の意見やアドバイスに、記録者がコメントを記入している。様々な気付きが得られたことが一目瞭然である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、市町村と共にサービスの向上に取り組む体制ができてない。	行政との折衝は、法人本部の役割となっている。管理者が市の担当者と顔を合わせる機会は、推進会議の他にはほとんどない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為をスタッフが行っていないか確認するよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、鍵をかけることを常識化しないよう努めている。	管理者、職員は、身体拘束をしないケアの重要性を理解しており、言葉による拘束についても留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り時に虐待防止について意見交換をし、各自防止に努めている。入浴時等、不自然な外傷などはないか観察し、報告を徹底することで意識を高め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について理解しているが、必要な利用者がいないので活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金の説明、退所に至る場合など説明し、家族の理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ一同、利用者や家族が意見を出しやすいよう、目配り、気配りを心がけている。意志表示の難しい方にも、表情や仕草など、常に意識しながら観察し、接するようにしている。	一ホームの利用者や家族から出された意見や要望を、定例の幹部会の議題として取り上げ、他のホームへも水平展開することでケアの質を高めている。しばらく休刊していた「やまと通信」が復刊した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、各館にてミーティングを行っている他、本部にて管理者会議を行って意見を聞く機会を設けている。	管理者が交代したが、職員の協調性が高く、安定した勤務形態である。職員の意見の吸い上げや働きやすい環境作りに関しては、本部の管理部長の存在が大きい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、定期的にスタッフ個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	精神的、身体的にケアの向上を目指して研修への参加に努めている。各館での研修を定期的に行い、一人ひとりのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どんな場合でも、本人の声をよく聞くことを大切にしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めていることを受け止め、それに対してどのような対応ができるのか話し合いをしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人と家族が納得できるような対応に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを、スタッフ一人ひとりが念頭において接し、利用者とスタッフが共感、協働、共存できるよう努めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の暮らしを家族が想像できるよう情報を伝えて、共有できるよう努めている。困った時など家族の意見を伺い、一緒に考え解決を導いていくことができるよう努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの生活習慣、生活環境、知人、友人などの関係が継続できるよう努めている。	家族の来訪と比較すれば数は少ないが、知人や友人の訪問もある。以前利用していた施設の仲間が訪ねて来たり、隣近所の友達が様子を見に来ることもある。	盛んに「松茸狩り」への招待を口にする山持ちの女性利用者がいた。招待を受諾したことで彼女は上機嫌であったが、調査員には重荷が残った。「せめて、山に連れて行けたら…」と。
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様々な関係を大切に、スタッフはそれに配慮している。目、耳等の不自由によりコミュニケーションが難しい方は、間にスタッフが入り、その方に合った援助を行うことで、より良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に来て下さいと、お伝えしている。退所されたご家族が、定期的にボランティアで音楽会を開いてくださっていることなど感謝している。今後も関係を継続していきたい。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から、本人の悩みや希望などが聞けるように努めている。本人の趣味、嗜好に可能な限り配慮し、支援を行っている。	日々のケアの中で聞き取った利用者の新たな情報(生活歴、思いや意向)は、「ケース記録」や「申し送りノート」に記入して、他の職員への周知を図っている。	聞き取った情報は、職員の記憶にとどめるだけでなく、介護計画へつなげる工夫がほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人について疑問に思ったことは、家族や知人に聞くように努めている。 個人年表を作成し、一人ひとりの生活歴を理解し、その方に合った暮らしやすい環境を整えていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、月に一度のミーティングで暮らしの現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の望む暮らしが出来るよう、本人、家族と話すようにし、その後スタッフ全員で意見交換している。本人の現状を把握し、変化に応じて見直し、新たな計画を作成するよう努めている。	計画の見直し前に、利用者本人や家族とも連絡を取り合って要望や意向を聞き取っている。職員によるモニタリングの結果、目標やケアの内容が前回の繰り返しになることが多い。	計画見直しは、「定期的見直し」や「身体的な状態の変化」に対応するだけでなく、精神的(思いや意向)な変化にも着目していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を基にして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	桜館のデイサービスを利用し、プログラムに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防で防災訓練の実施をし、協働している。消防や警察との協力と支援をととても大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意を得て協力医療機関と関係を結んでいる。	利用者の一人を除けば、全員が同じかかりつけ医の往診を受けている。専門医への通院付き添いは、原則家族対応となっているが、職員が付き添うこともある。職員による送り迎えは無償である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と密に連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージ、ストレスや負担を軽減する為に、家族と相談しながら医療機関に対して話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人、家族、医療機関で話し合い、本人にとって最善の支援ができるよう努めている。終末期になった場合、チームでの支援をどう実践していくか検討している。	開設から4年が経ち、利用期間が長くなった利用者の中には要介護度の進行が見られる者もいる。利用者、家族の意向を最重要視し、医師の意見を参考にして対応を決めることとしているが、終末期のケア体制を真剣に考える時期を迎えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えは万全ではないと考え職員間の話し合いを重ねている。緊急についてのマニュアル作成、救急、蘇生についての研修に参加するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時、火災時の防災訓練を定期的に行うよう努めている。	災害対策に関して、運営推進会議で綿密な話し合いがもたれ、地域住民の協力体制作りにも話が進んだ。今期、消防署立ち会いでの防災訓練や夜間を想定した避難訓練の実施はない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重、プライバシーには配慮している。	理念にうたう「礼節と尊厳」そのままに、場面に応じて利用者にとって最も心地よい言葉かけを行っている。食事中にも、利用者と職員の楽しい会話が途切れることはなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定は大切なので配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をよく聞き、それに対してどのような支援ができるか、本人、家族と相談している。本人が、したい時に合わせて支援したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に合わせて、本人の身なりは配慮している。また、定期的に施設まで理美容師に来て頂き、利用される方もいる。その人らしい身だしなみ、ファッションなども継続していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けを利用者で行い、食事中は会話をしながら楽しんでいる。利用者とスタッフで一日の献立を決定し調理する日を設けたい。	調査時間の都合で、準備の場面を見ることはなかったが、食後の片付けは利用者の力量に応じて手伝っていた。会話が弾み、楽しい食事タイムであった。10時と3時には、利用者に好評なティータイムが設定されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎日記録、水分はこまめに飲んで頂くよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は義歯の洗浄、口腔ケアを行っている。 自立している利用者に対しても声かけを行い口腔ケアを促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。	尿意を失ってしまった利用者にも、トイレで排泄してもらうことを基本として支援している。洋式トイレに馴染めなかった利用者がいたが、介護計画に乗せて支援をした結果、使用できるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に良い食べ物(ヨーグルト、牛乳、寒天)を摂取し、体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はおおよそ決まっている。一人ひとりのタイミングに合わせて入浴して頂いているが、希望に添えない場合もある。	お風呂好きが多く、毎日入浴している利用者もいる。公平を保つため、一番風呂は男性と女性とを一日置きに設定してある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、夜は休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬の用法、用量を確認し、スタッフに周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした場面が出来るよう配慮している。一人ひとりが社会的な生活を送れていると実感できるような環境を作りたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者、家族と外出については相談し計画を立てて実現するよう支援している。	家族からの強い要望として、外出機会の増加が出された。ホームでの検討の結果、毎月遠出外出を組むこととなり、実行に移された。前回評価時と比較し、家族アンケートの評価が大きく好転している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてご家族よりお預かりしたお金以外に希望者には、ご家族と相談の上、小額を手元に持って安心して頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを利用者と作成し、季節感を感じて頂くよう配慮している。また、熱帯魚を飼育し和んで頂いている。	1階、2階のユニットとも、広いホールを持っており、昨年の調査時にはクリスマス会が開かれていた。利用者と職員とで飼育している熱帯魚・グッピーは、またその数を増やしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳ベンチなど、一人ひとりの居場所が出来よう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方には昔から愛着のあるものを使用している。	先だっただご主人の遺影を飾り、位牌を安置している利用者があり、懐かしむように昔の思い出を語ってくれた。職員からもらった手作りの色紙を、宝物のように飾っている利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方が、安全に暮らして頂けるように、周りに危険物がないか確認するようにしている。自立を促し、手すりの増設をし、利用者の目線に立ち、安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果 (2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372202032		
法人名	株式会社オフィスシンセリティ		
事業所名	グループホームやまと椿館 2F		
所在地	愛知県一宮市竈屋四丁目13番16号		
自己評価作成日	平成22年 1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年 6月 9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372202032&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成22年 3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・常に利用者様のペースを大切に、その人らしい生活が提供できるよう努めています。
 ・日々、利用者様と職員がコミュニケーションを図る為に四季折々の製作やレクリエーションに力を入れ、同じ時間を共有するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「礼節と尊厳」の運営理念のもと、全員が「生涯家族」であるという思いを持ち家庭的な生活の場を提供し、利用者の人権を尊重し、利用者本位のサービスに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回すときは、近所の方に挨拶をし、世間話などもするようにしている。地域の情報を的確にキャッチし行事ごとに積極的に参加したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	盆踊りや屋台を出店して夏祭りを行い、地域の皆様に参加して頂けるよう、地域の回覧板にて案内を回して頂いている。一宮太鼓の保存会の皆さんを招いての競演など、地域の夏の風物詩になれるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し報告・意見を基に、地域への周知向上、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、市町村と共にサービス向上に取り組む体制が出来ていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる行為をスタッフが行ってないか確認するよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り時に虐待防止について意見交換をし、各自防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について理解し知っているが、必要な利用者がいなかったため活用していない。制度についての勉強会を行い支援できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用料金の説明、退所にいたる場合など説明し、家族の理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ一同、利用者の方が意見を出しやすいよう目配り、気配りを心がけている。 家族の方へ、満足度アンケートを記入して頂き運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、各館にてミーティングを行っている他、本部にて管理者会議を行って意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、定期的にスタッフ個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	精神的、身体的にケアの向上を目指して研修への参加に努めている。各館での研修を定期的に行い一人ひとりのスキルアップをしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どんな場面でも本人の話をよく聞くことを大切にしている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を受け止め、それに対してどのような対応が出来るのか話し合いをしている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人と家族が納得できるような対応に努めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、スタッフが共感、協働、共存できるように努めている。常にコミュニケーションを図り、信頼関係を深めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の暮らしを家族が想像できるよう情報を伝えて、共有できるよう努めている。不安を抱える家族に理解と共感を示し、支援している。また、指導的ではない、プラス思考への指導を考えている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの生活習慣、生活環境、知人、友人などの関係が継続できるよう努めている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様々な関係を大切に、スタッフはそれを支援する。利用者同士が関り、コミュニケーションが図れるような場を提供したり、レクリエーションやイベントを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に来てくださとお伝えしている。関りが必要な方に対しては、電話などで状況を確認している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から、本人の悩みや希望などが聞けるように努めている。日々、コミュニケーションを図り、信頼関係を築くことで、利用者の心の底の思いや希望を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人について疑問に思ったことは家族や知人に聞くよう努めている。 利用者との日常会話の中で、これまでの暮らしが少しでも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、月に一度のミーティングで暮らしの現状を把握している。利用者の状態や変化など、スタッフが常に把握できるように申し送りノートに記入しチェックするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が望む暮らしが出来るよう、本人・家族と話すようにし、その後スタッフ全員で意見交換している。本人の現状を把握し、変化に応じて見直し、新たな計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を基にして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	桜館のデイサービスを利用し、プログラムに参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防で消防訓練を実施し、協働している。消防や警察との協力と支援をととても大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の同意を得て協力医療機関と関係を結んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と密に連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージ、ストレスや負担を軽減する為に、家族と相談しながら医療機関に対して、話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人、家族、医療機関で話し合い、本人にとって最善の支援ができるよう努めている。終末期になった場合、チームでの支援をどう実践していくか検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えは万全でないと考え職員間の話し合いを重ねている。緊急についてのマニュアル作成、救急、蘇生についての研修に参加するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震時、火災時の防災訓練を定期的に行うよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重、プライバシーには配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定は大切なので配慮している。 利用者の自己決定できる場面を増やしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をよく聞き、それに対してどのような支援ができるか、本人、家族と相談している。 本人がしたい時に合わせて支援したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に合わせて本人の身なりは配慮している。また、定期的に施設まで理美容師に来て頂き、利用される方もいる。その人らしい見だしなみ、ファッションなども継続していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けを利用者で行い、食事中は会話をしながら楽しんでいる。 利用者とスタッフで1日の献立を決定し調理する日を設けたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎日記録し、水分はこまめに飲んで頂くよう配慮している。食事量や水分摂取量が足りない利用者に対しては、本人の好物などを提供して確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前は、義歯の洗浄、口腔ケアを行っている。 自立されている利用者に対しても声かけを行い口腔ケアを促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。 排泄チェック表を作成し個々に合わせてトイレ誘導している。また、トイレの間隔が長い方は声かけを行い排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に良い食べ物(ヨーグルト、牛乳、寒天)を摂取し、体を動かす機会を設けている。 利用者の状況に応じた予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はおおよそ決まっている。一人ひとりのタイミングに合わせて入浴して頂いているが、希望に添えない場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、夜は休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬の用法、用量を確認し、スタッフに周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした場面が出来るよう配慮している。 一人ひとりが社会的な生活を送れていると実感できるような環境を作りたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物など出かけられるよう支援している。 少しずつだが、利用者の希望に応じて散歩や喫茶店など外出する機会を増やしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてご家族よりお預かりしたお金以外に希望者には、ご家族と相談の上、小額をともに持って安心して頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを利用者と作成し季節感を感じて頂くよう配慮している。また、熱帯魚を飼育し和んで頂いている。施設特有の環境要素が利用者様を混乱させないよう検討対応を図る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳ベンチなど一人ひとりの居場所ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方には、昔から愛着のあるものを使用させて頂いている。在宅生活と変わらない暮らしを送れるよう一人ひとり固有の住環境を整える。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方が、安全に暮らして頂けるように、周りに危険物がないか確認するようにしている。自立を促し、手すりの増設をし、利用者の目線に立ち、安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームやまと椿館

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 5 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	ホームの強みを引き出す意味合いにおいて、独自の理念の必要性を感じる。	職員皆で話し合い、椿館独自の理念を考えたい。	のんびり穏やかに楽しく暮らしましょう。	2ヶ月
2	23	聞き取った情報は、職員の記憶にとどめるだけでなく、介護計画へつなげる工夫がほしい。	聞き取った情報を共有できるような仕組みを作る。	意思の疎通をはかり、「聞き取りシート」を作成し、スタッフがいつも目を通せるようにしたい。	4ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。